



先月は、お遍路結願（けちがん）にアジルー音楽祭と怒涛の月でした。「盆と正月が一緒に来たようなく」と言う表現は、正にこの事かと実感しています。
どちらも様々な人の想いが重なって成功した、その様な特別な時間でした。関わった全ての方へ感謝申し上げます。

お遍路結願

良啓

先月十四〜十九日の五泊六日の日程で、四国八十八ヶ所回り、更には高野山奥の院参拝を終えました。千二百年前に衛門三郎から始まったお遍路行は、全ての真言宗徒にとって神聖な修行です。奈良県の山間の集落で、完成した遍路御朱印掛け軸を拝ませてもらった時の衝撃は、今でも覚えています。信仰とは何なのか。深く考えるきっかけで、いつか自分もと強く念じた事でした。あれから二十年が過ぎた今回、八十八個の御朱印を眺めていると、本当にたくさんの感情が沸き上がります。

特に、最後の八十八番大窪寺を終えて、高野山に上がり、奥の院（お大師さんの御廟）で結願報告をした時の読経は、いつまでも忘れる事のない特別な感覚でした。私の声と千年杉の木立が、玉川の清流がすこしづつ歩み寄りながら混ざり合って、一つになる瞬間でした。それは、千年と一瞬は本質的に一つであり、時間は過去から未来へ、そして、未来から過去へも流れている。高野山の広大な場所から見たら、私は小さな存在ですが、私と言う存在が無ければ、この広大な世界は成立しない。そんな不思議な感覚でした。

最後に、二年に渡り一緒に行を歩んで頂いた七名には本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。
さあ、次はいつになるでしょうか。今から楽しみ中です。

身近にある仏教語 番外編

裕俊

先日、テレビで「住職・僧侶・和尚・お坊さんの差ってなんですか？」というコーナーがありました。私達も法事の際によく尋ねられる事なので、今回はその差を解説いたします。

【住職】 お寺の代表者です。大きいお寺でも小さなお寺でも一人だけです。住職ではない僧侶に「住職！」と呼び掛けてしまう事は、一般企業で従業員に「社長！」と呼び掛けているようなものなので注意しましょう。

【僧侶】 出家して仏門に入った全ての人を指します。年配の住職も、若いお坊さんも、女性である尼さんも、出家されている人はみんな僧侶です。

【和尚】 宗派によって「おしょう」「かしょう」「わじょう」などと読み方が変わります。経験を経たベテランの僧侶のみが和尚と呼ばれる宗派があるので、注意が必要です。

【お坊さん】 坊（僧侶の住まい）の主という意味の「坊主」が親しまれて呼ばれるようになった言葉ですね。本来の意味であれば住職に近いですが、現在は若い僧侶にも使える言葉です。

どう呼ぶのが一番間違いないのかという点では、「僧侶」か「お坊さん」の二択となりますが、「僧侶さん」ではなにかしっくり来ないので「お坊さん」が良いでしょう。

